

バイエルクロップサイエンス・種子処理技術センター

研究所 ルポ

バイエルクロップサイ
エンス(東京都千代田区)
は、世界各地で種子処理

豆や小麦などの種子処理技術センターを構える。バイエルは各国に大

セントラ（千葉県柏市）
では唯一、水稻をメイン

アの水稻農業の発展について述べておきたい。日本での活動が国内だけでなくアジアの水稻農業の発展について進めている。将来を見据えた取り組みに注力する現場を訪れて。

水稻メイン、"使いやすさ"追求

集め、日本で活用するための基盤づくりが活動の中心だった。バイエルは世界の各地域で栽培される作物に合わせて、さまざまな種子処理技術を有するものの「水稻は水の中に入れる」という、他の作物にはない特徴がある(千葉常則技術マネジメント)ことから、世界のノウハウを基盤としつ

つい、日本ならではの仕様に発展させる必要があつた。

開発された水稻種子処理技術「バイエル・シードグロース」では、あらかじめ種もみに種子処理剤と種子被覆剤をコーティングすることで、防除効果を付与できる。また、その後の防除作業を省力化できるため、農業者の高齢化に伴う労働力不足の解消につながる。

アプリにレシピ提示機能も

塗抹処理で防除省力化

化および減少、農地の大規模化といった課題を解決するための有効なノブリューションとなる。種もみに直接薬剤を塗抹処理することにより、箱処理剤と同等の効果・残効性を発揮し、田植え後の本田で病害虫を防除することができる。

使い勝手のよい手法を考案すること」で、バイエルシードグロースの普及を早めようと考えた。事業化時は2剤の組み合わせで始まったが、その後3剤の組み合わせに変更された。「3剤への変更にあたり、いかに上手に組み合わせせるか」といったノウハウを集めることに軸足が移つていった」(同)。という。年月を経ること、実際に使用した農家

サービスの創出につながっている。現在の基本的な使い方は、ミキサーの中に種もみと薬剤を入れてスイッチを押すというもの。ミキサーを約5分回転させると、種もみに薬剤がコートされている。その後、塗抹された種もみをブルーシートなどに広げて乾燥させれば作業は完了する。24年から25年にかけて、より一層簡易的

これにより種もみが持ち運びやすくなり、ミキサーに入れた後塗抹後に広げたりする作業が簡便になった。「柏では日々、より簡単な処理方法の開発に取り組んでいる」(同)。また「塗抹方法がどんどん簡単になっていく」と、次は農家がどの薬剤などを組み合わせて使えばよいかという疑問が浮上してくるので、われわれはデジタルでの処理



集積や新サービス創出にシフトしていく。よりから生の情報が蓄積され、新たな使用方法やサ

発(上)。塗抹後、乾燥させれば作業が完了

・シビ提示機能も

た。処理できる手法を実現し

江西省志

センターの役割は当初の基盤整備からノウハウの蓄積に、実際に使用し

17年頃から事業化に成功すると、種子処理技術

を發揮し、田植え後の本田で病害虫を防除することである。

することにより、箱処理剤と同等の効果・残効性で始まつたが、3剤の組み合わせ

化および減少、農地の大規模化といった課題を解決するための有効なソリューションとなる。種もを使い勝手のよい手袋を早めようと考える。